

わたしたちと 新しい学びを 設計してみませんか？

私たちは昨年度から、特別支援学校高等部を卒業した知的障がいのある人が学び続けられる環境を探る研究事業を行っています。その中で、障がいの有無をこえ、さまざまな人たちと語り合うフラットな会議「超大学」にひとつの可能性を見出しました。



2018.11 武蔵大学文化祭



2019.8 練馬区教育委員会主催教職員研修

教える・教えられる、支援する・支援されるといった関係性は、障がいのある人たち周りにはとても多く、同じ立場で話をする機会は実は限られたものです。

しかし「超大学」のような立場を超えた場では、二極化された関係性では生まれにくい知的刺激がたくさん生まれています。

「超大学」の回数を重ねていく中で、実はこの場が障がいのない人にとっても、気づきを生む機会となっていることがわかってきました。障がいのある人のためだけでなく、障がいのない人のためにもなる、参加したすべての人にとっての学びの場となっています。そして、それは彼らがいるからこそ可能なのだと感じています。



2019.10 大田区区民大学



2019.9 イギリス交流研究セミナー

しかし一方で、こうした学びの場が多様性を維持しながら継続的に実施されていくためには、さらにどのような要素が必要となるのか、参加者のモチベーションや意義づけの可能性を探っています。今回は、「超大学」が企業での人材育成研修という目的設定に合うものであるか、その可能性を実際に「超大学」を行いながら、議論していきたいと考えています。

【「超大学」過去の実施】

2019.9.4 @静岡大学

静岡大学の学生たちと「超大学」を開催し、授業として取り入れることの意義やその先に拓く可能性について検討をしました。

知的障がいのある人たちが、暮らしの中で感じている素朴な問いかけをきっかけに、脱線したりもしながら、ワイワイ語り合いました。

参加した学生たちからは「いままで当たり前になっていて、考えたこともなかったことを改めて考える機会になった」との声が多数聞かれました。



真剣な表情で語り合う学生たち

障害者雇用担当、CSR推進担当、人材育成・研修教育担当の方々など
企業みなさまにご協力いただきたいと思います。

フラットな関係性の ごちゃまぜな会議に ご興味を持たれた方は ぜひご参加ください！